

南アフリカ為替週報

2022年6月23日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(6月16日～6月22日)

USD/ZAR: 15.7550～16.1025
 ZAR/JPY: 8.19～8.60 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、米連銀公開市場委員会(欧州時間15日夜)後の急騰からの急反落からスタート。その後は16.0(対ドル)を挟んだ比較的狭い値幅における横ばいを続けた。15日夜のランド急騰は、時間から判断して同日の米連銀公開市場委員会における利上げ判断を受けての反応と思われたが、どういう経路で大幅(+75b.p.)利上げがランド高を招いたかはよくわからなかった。確かに、ドル全般(ドル指数)は利上げ発表を受けて軟調に推移したし、そこに「噂(期待)で買って、事実で売る」要素があった可能性は考えられた。ただ、利上げ発表に先駆けてのランド売り(ドル買い)と発表後のランド買い(ドル売り)とは、明らかに均衡を欠いていたし、ランドが対ドルでの(局面における)上昇率1位になるような南ア固有の要因はどこにも見当たらなかった。翌日、やはり特段の要因もないうちにランドが急反落した事実を鑑みて、ランド買いにも、ランド売りにも、特段の要因があったわけではなく、米利上げ後に、たまたままとまったランド買いが一巡しただけの値動きだったのではなかろうか。主要通貨市場では、この間、スイス国立銀の予想外の利上げ(16日)が、スイス・フランだけでなく円の(一時的な)急騰を招き、それがドルの全面急落を招く局面も見られたが、一連の経緯がランドの値動きに影響した様子は僅かにしか読み取れなかった。南ア固有の要因では、22日の南ア5月CPIの大幅上振れは、南ア準備銀追加利上げ観測を補強するものと考えられたが、コアCPIが市場予想の範囲にとどまったせいも、ランドはほとんど反応を見せなかった。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/22	8:00	CPI(前年比)	5月	+6.5%	+6.1%	+5.9%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

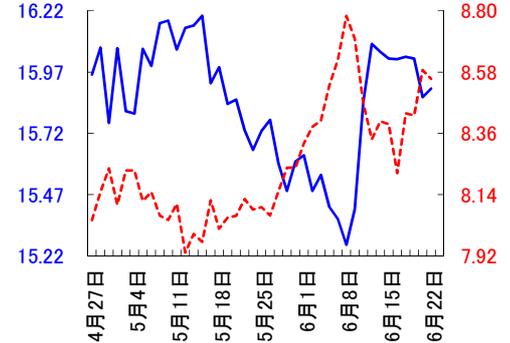
(6月23日～6月29日)

USD/ZAR: 15.700～16.100
 ZAR/JPY: 8.45～8.75

向こう1週間の南ア・ランド相場は、現行水準における方向感を欠いた横ばいを予想。現在のランド水準(対ドル)を大局的に俯瞰すると、2015年の12割れ以降(コロナ禍が重石となって招いた2020年3月～11月の下振れ局面を除いて)続いた12～16をコアレンジとした横ばい推移の安値圏にあたる。(同じ見立てを対円でするなら、足元円安を反映して、レンジの「中ほど」にあると見ることが出来る。)南ア準備銀クガニヤホ総裁は、同国のリスクプレミアム(≒長期国債利回り)に低下余地があるとの文脈で、「(他の新興国との比較で)低位にあるインフレ率」「経常黒字」「一部大手格付会社による格付見通しの引き上げ」などに言及した(21日)。上記は、特に他の新興市場通貨との比較で、ランドに強気になれる要因には違いないものの、同総裁が、同時に、「(南ア準備銀が)早期に物価抑制に動いたことで、他の新興国よりも低い(政策)金利を維持し、経済を窒息させずに景気回復を促すことができる」などと述べたのには少なからぬ違和感を抱いた。今次局面で同銀が利上げに動いたのは昨年11月のことで、(戦争前の)ロシア(昨年3月)、チェコ(同6月)などはおろか、ポーランド(同11月)にすら(2週間)遅れを取っている。事実上、「早期」でもなんでもなく、それが許されたのは、単純に、南ア経済(特に消費)が他の新興国のそれとの比較で明確に落ち込んでいたからに過ぎない。その要因は、コロナ禍が(相対的に)深刻だったことや、プラチナ、鉄などの主要輸出産品の価格急落などに求めることもできたが、その上に、電力不足(頻発する計画停電)や高失業率(特に若年層)などといった南ア固有の悪材料も大きく重石になっていたはず。今になってインフレの相対的な落ち着きを誇れるような構図にないはずだし、未だにランドが安値圏に張り付いている事実を裏付ける構図とも言えるはず。経常収支が明確な黒字基調を引き続き維持しているのは明確な好材料と言えるはずだが、これも「他力本願＝交易条件改善(資源価格上昇+ランド安)」のおかげ。ランドを敢えて売り込むような新規悪材料は確かに見当たらないものの、ランドを買い進めるような好環境が、少なくとも今の段階で(今年末の与党アフリカ民族会議(ANC)党首選後に期待か?)整っているとも考えられない。

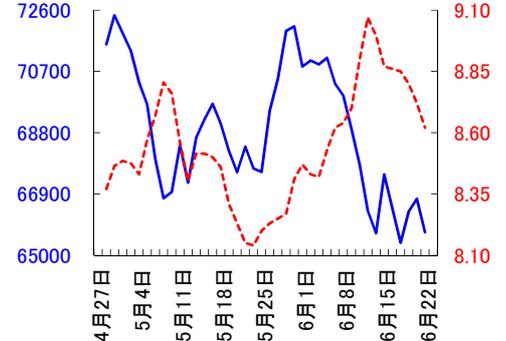
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸:対米ドル、点線/右軸:対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸:JSE全株、点線/右軸:10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.75%
長期金利(10年スワップ)	6月22日	8.620%
株価指数(JSE全株)	6月22日	65712.68
成長率(GDP/前年比)	Q1	+3.0%
経常収支(ZAR)	Q1	+143bn
失業率	Q1	34.5%
消費者物価(前年比)	5月	6.5%
小売売上高(前年比)	4月	+3.4%
製造業生産(前年比)	4月	-7.8%
鉱業生産(前年比)	4月	-14.9%
貿易収支(ZAR)	4月	+15.5bn
金価格(ロンドン17:00)	6月22日	1838.16

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。